

東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故に関する「会員の声」

未曾有の惨事となった東日本大震災と、それに伴う福島第一原子力発電所の事故について、会員から幾つかのご意見をいただいています。本欄にこれらの声を公開し、会員の皆様の自由な意見交換の場といたします。下記参照の上、積極的にご投稿いただきますようお願いします。

- ・ 投稿は academy@ej.or.jp まで、およそ 400 字以内でお願いします。長い場合や資料などがある場合には、一部を別ページにいたします。
- ・ 特定対象に向けた誹謗その他公開に不適切な内容は掲載いたしません。ただし掲載された意見についてもその正当性を掲載者が保証するものではなく、読者の判断に委ねるものとします。
- ・ 作業の都合上、投稿から掲載まで多少時間を要することをご了承ください。

専務理事 山田敏之

投稿順に順次追加していきます。

(2011/4/12) 投稿者：岩田修一

「FUKUSHIMA」の考察と未来を見据えた論議

今回発生した福島第一原子力発電所の事故「FUKUSHIMA」を真摯に受けとめて、経験を超えたタフな工学の構築と個のケアを基軸にした安全学構築への予備的考察を行った。

「地震」・「津波」・「核」による災害・事故の克服への努力が続いているが、時々刻々と噴出する眼前の課題の着実な解決とともに、世代を超える新しい発想の力強い行動計画の作成と実行が必要となっている。地震や津波は今回が最後ではない。東北関東地域では、3月11日以降も余震が続いている。4月7日にはマグニチュード7.4の強い地震があった。次の大きな地震や津波が何時なのか、何処なのか、どの程度なのかは誰も予測できない。

「FUKUSHIMA」に関するデータ、知識の徹底的な再編を通して、極めて困難な状況下で問題解決を要請される大きなリスクへの周到な準備を行うことが必要である。

⇒ [続きを読む](#)

⇒ [英文](#)

(2011/4/7) 投稿者：日本工学アカデミー会員有志

緊急提言：「日本の再建に向けて」

今回の大地震と大津波は、人知をはるかに超えたものであり、それらによる被害の爪痕の映像をみるにつけ、大きなショックを隠しきれない。また、福島第一原子力発電所事故について、工学者として深く心を痛めている。未曾有の状況の中で、被災者の救助、生活支援、事故への対応、広報等に日夜、取り組まれている方々に対し深い敬意を表す。

こうした事態により、日本は空前の難局に直面している。また、事態の世界的影響から、海外の関心も、我がことのように日本の一挙手一投足に注がれている。日本が精緻に構築してきた技

術・社会が自然の猛威の前に瓦解しかけている。この難局を克服し、次世代に向けて日本を再建するためには、また、科学技術創造立国・日本が再び立ち上がり国際社会で活躍・貢献するためには、産学官の英知を結集し総力戦で臨まなければならない。誤りや事故を起さないことを前提とした従来の思考論理を、不幸にしてそれらが起こっても迅速に対応し乗り越えていくことを前提としたものに変革していくことも必要である。

現下の状況に鑑み、クライシスマネジメント、情報発信、原発事故対策、新社会システム設計の4課題について緊急提言する。

⇒ [続きを読む](#)

(2011/3/25) 投稿者：大来雄二、小松康俊、吉田 眞

東北関東大震災からの再起に向けて

日本は開国、敗戦に続く、三度目の危機を迎えている。EAJも社会から公的に認められた組織である以上、この危機に直面して、ささやかであっても何かできないか。すでにそのWebページには、ネットから得られる関連情報が、リストアップされている。それに加えて何かをしたい。筆者等は電子メールの交換で、次のような仮想会議を行った。その際には、他の数人の会員にも伺い、有益なご意見をちょうだいした。危機克服につながる意見が少しでも含まれていればと、否、そのような意見が含まれていなくても、他の会員諸賢から手厳しいご批判の形でもよい、危機克服につながるご意見を何かちょうだいできればと念じる。

⇒ [続きを読む](#)

(2011/3/22) 投稿者：玖野峰也

今回の福島第一原子力発電所の事故は、これまでのスリーマイル島やチェルノブイリとは違った面があると考えます。それは事故の主原因が「作業ミス」や「機器の不良」ではないことです。勿論、事前にどのような環境に耐えるのかを決める段階での議論についての評価は課題としてあるのですが、目の前に起こった事象そのものは「大きな自然の力」によって破壊された訳です。その中で、限られた手段で懸命に事態の悪化を防いでいる技術者や作業員の方々に最大限の敬意を表します。同時に、これまでのような必ず対策が打てる原因（上述の「ミス」や「不良」に相当）が存在しない今回の事故は、安全策の抜本的な見直しが必須であり、事態の甚大さに応じた階層的な対策が必要だと思えます。